

第6回読書のまちづくり市民ワークショップ開催結果概要

日時：平成24年10月17日(水) 18:00～20:15

会場：市立図書館会議室(恵み野西5-10-2)

参加者：ワークショップメンバー 7名
ファシリテーター 2名
傍聴者 3名
事務局 8名



開会

テーマ

「(仮称)恵庭市人とまちを育む読書条例」
素案について

意見交換

このたび、市民ワークショップでいただいたご意見などを事務局が条例素案としてまとめましたので、メンバー全体で意見交換を行いました。

全体討議

前文について

- メンバー ・「ワークショップからのポイント抽出」が生かされ、市民にとってもわかりやすい、良い前文である。
- ・市の特性、目指す姿が示されて良いのだが、子どもの目線を考えた場合、この表現が理解できるか疑問だ。

目的について

- メンバー ・現在、図書館を中心に取り組んでいる読書活動は大きな財産を生み出している。そういう土壌で生まれ育ったことに誇りを持ち、胸を張って言えるようにすることは立派な目的であり、そのような大きさ、深さ、広がりを感じ取れる表現、「郷土愛」につながる文言を事務局側で考えてもらいたい。
- ・「活力あるやさしいまちづくり」とあるが、何にやさしいのか不明。
 - ・後半の部分とつじつまが合わないので、「市民、家庭、地域、学校～明らかにし」を削除してはどうか。
 - ・ワークショップメンバーの気持ちや意見がシンプルにまとめられていて、評価できる。目的の中では具体的なことを求めなくても良いが、「地域」のイメージが難しいかもしれない。

- ・前文に「人を育て、人とのつながりを深め、心豊かな」など同じような表現があるので、重複を避けもう少しシンプルにしても良いのではないかと。
- ・前文は前文の役割があり、目的には目的の役割があるので、同じ文言を使っても良いのではないかと。
- ・「ワ - クショップからのポイント抽出」キ - ワ - ドの「場所をつくること」「成長させること」は、「家庭」「地域」「学校」が「場所」であり、「成長するところ」だと捉えることができる。

定義について

メンバー ・「市民」の定義で、市外から恵庭市の図書館に来て調べ物をした場合は該当しないのか。 通勤・通学に当てはまらない市外在住者は、この条例に該当しません。

・「地域」の定義付けはしないのか。ここでの地域とは具体的に何か。 「地域」とは町内会・学校区等に様々に考えられことから、定義付けは難しいと考えています。

・「読書活動」に家読は入らないのか。 「読書」に含むと考えています。

・「一斉読書」は「読書」に入らないのか。 一斉に行なう読書活動のため、「読書」には含まないと考えています。

・「読書活動」に「調べ学習」があるが、インタ - ネットを使った場合はどうなるのか。 「読書活動」を通じ文字を読み取る力を育成するという観点から、「調べ学習」にはインタ - ネット活用も含むこととし、幅広く考えるべきと思います。

・読書活動の「本のリサイクル」に違和感がある。リサイクルは本を読まなくてもできてしまうのではないかと。 「本のリサイクル活動」として捉えています。各施設などで本を使い合う、本で交流する、本を大切にすることを育成する活動として考えています。

・「読書活動」にボランティアを表記しないのはなぜか。 現在、「読み聞かせ」「本のリサイクル」などの様々な読書活動に、ボランティアの皆さんが関わっているためです。

基本理念について

メンバー ・基本理念があるので目的をシンプルにしてはどうか。検討してほしい。

・文章が長すぎて読んでいて息つく暇がない。句読点で文章を区切ったほうが良い。



・子どもが読めても理解までは難しいのではないのか。子どもが理解できる言葉で表現したものを用意してはどうか。小学4年生が読んでわかるような文章が基準となるだろう。

市民の取組みについて

メンバー この取組みで良い。

家庭の取組みについて

メンバー ・「読書から～」の「から」は違和感がある。「読書を通したコミュニケーション～」にしてはどうか。また、子どもだけでなく高齢者も対象となるので「年齢に応じた」は必要ないのではないか。

・家庭でこそ本にふれる楽しさや読書の楽しさが生まれる。読書を通して家族がふれあい、コミュニケーションが深まるという表現を入れるべきだ。

地域の取組み

メンバー 事業者はどの取組みに入っているのか。また、「ボランティア活動等」と表記すると、ボランティアが地域の取組みの中で強調されてしまうのではないか。

事務局 事業者は、この地域での取組みに入ります。また、地域での取組みは「ボランティア活動」だけではないため「等」と表記し、地域社会における読書活動の具体例として示しています。

学校の取組みについて

メンバー 「ふるさとを誇りに思う心の育成」は総合的な取組みであり、学校だけの取組みではない。

市の取組みについて

メンバー 条件整備がしっかり書かれていて内容も良い。

人とまちを育む読書推進月間について

メンバー 「人と人をつなげ」の「つなげ」は、ひもや綱などで強制的に結ぶという意味があり、用語として不適切なので削除すべきである。

事務局 前文でも同様の表現がありますので、ご意見をもとに全文を通じて検討いたします。

条例の名称について

メンバー ワ・クショップでまとめた名称であり異存なし。

素案全体を通じて

メンバー すべての市民が対象なので、障がい者・高齢者・子どもに配慮した形の条文印刷物を用意してもらいたい。例えば、ルビ付き・SPコード付き・子どもが理解できる言葉で表現したもの等が考えられる。

事務局 いただいたご意見を参考に、条例の最終案を検討していきます。

6回に亘ってのワークショップに参加いただき、心から感謝申し上げます。今後につきましては、12月の定例会に条例案を提案し、来年4月の施行を目指すこととなりますので、今後ともよろしく願いいたします。
本日はありがとうございました。

閉会

